

公明党いせはら会派視察報告書

➤ 実施年月日:令和6年7月9日(火)～10日(水)

➤ 調査・視察場所/調査事項

1. 福島県会津若松市スマートシティAiCT/スマートシティについて
2. 千葉県流山市役所/子育て支援(送迎保育ステーション)について

<福島県会津若松市>

➤ 調査概要

会津若松市は人口 111,635 人、面積は 382.99 km²で福島県西部の会津盆地のほぼ中央に位置し、磐梯山や猪苗代湖などの豊かな自然に恵まれたまちである。

会津若松市の現状は、人口減少や少子高齢化など、全国の他の自治体と共通の課題を抱えており、平成 7 年を人口のピークに年 1,000 人以上のペースで人口が減少し、特に若年層の人口減少率が大きい。

そのような背景のなか、会津若松市では、ICT(情報通信技術)を手段として様々な分野に活用し、ICT 関連企業の集積により、新たなしごとや産業を創出し、先進的なデジタルサービスを地域に適用することで、地域課題の解決や市民生活の利便性向上を実現する取組であるスマートシティ会津若松を展開している。

当事業を展開したきっかけは、2011 年 3 月 11 日に発災した東日本大震災の復興を目的にアクセンチュア(株)などの企業が中心となって産学官協働の取組を開始した。

2021 年には「一般社団法人 AiCT コンソーシアム」を立ち上げ、その取組を加速化している。取組事例は多岐に渡っており、レコメンド型の地域情報提供プラットフォーム「会津若松+」、スマートアグリ(農業)、【食・農】需給マッチングサービス、まち全体を学び場に“まちスク”、産業観光を起点とした観光 DX、位置情報を活用したデジタル防災などがある。

今回は、会津若松市が進めるスマートシティの取り組みの全体像について確認するとともに、AiCT コンソーシアムの取り組みの全体像と食・農業領域の取組について確認した。

➤ 所感

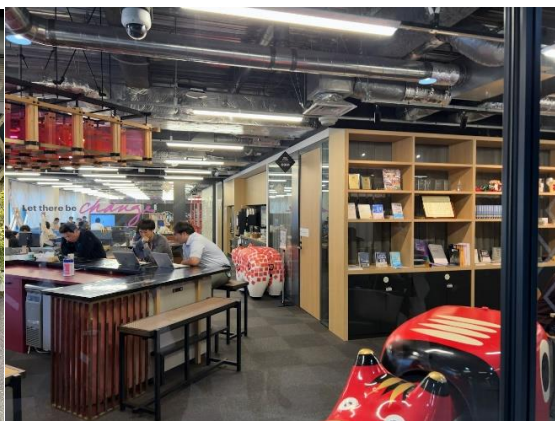
会津若松市のスマートシティ事業は、第7次総合計画でまちづくりのコンセプトのひとつとして、時代の変化を的確に読み取り、新たな考えを取り入れながら、将来にわたって、安心して暮らすことのできるまち、魅力的で活力のあるまちをつくり、後世につないでいくことを目的に「スマートシティ会津若松」を展開している。

具体的な取組は、民間企業と会津大学などが中心となって活動を推進していることは大きなポイントと感じた。その基盤となっているのは、会津若松市が中心となり整備したデジタル情報プラットフォーム“都市 OS「会津若松+」”であり、そこから「モビリティ」「決済」「教育」「ヘルスケア」「エネルギー」「農業」「観光」「ものづくり」「防災」「行政」「インフラ」などの市民のオプトインによりパーソナライズされたサービスを提供している壮大なスマートシティ構想であることにその深さ、拡張性、持続可能性を感じた。

一方で、都市 OS のみではスマートシティは成り立たないことから、企業の集積、大学との連携、市民理解の促進などにも注力していることも重要と思う。「スマートシティ会津若松」の取組は、地域・市民・企業にメリット・納得感がある『三方良し』の考え方をベースとして、「地域特性を生かした地方創生への取組」、「ユーザー（市民など）の視点に沿った地域課題解決」を根幹に置いている。今後更に各分野においてのサービス、プロセスなどを研究し、本市におけるフィット＆ギャップを行いながら関連する所管課に提案していきたい。



今野議員、中山議員、（秦野市）横山議員、間地議員、中村議員



AiCT コンソーシアム交流棟フロア

<千葉県流山市>

➤ 調査概要

人口 212,194 人、面積 35.32 km²の流山市は、秋葉原駅からつくばエクスプレス快速で約 20 分の緑豊かな落ち着いた住宅都市。南北 7 キロ、東西 5 キロの比較的小さなまちだが、つくばエクスプレス、JR 武蔵野線、JR 常磐線、東武アーバンパークライン、流鉄流山線の5路線 11 駅があり、また、常磐自動車道流山 I.C.により車での移動にも便利なアクセス拠点となっている。

流山市では、「都心から一番近い森のまち」を目指すまちのイメージとして掲げ、緑豊かで良質な住環境の整備を進めており、市内には約 400 の公園や森が存在している。今回の視察では子育て支援のうち、特に送迎保育ステーションについて調査を行った。流山市の人口構成は、市制施行以来、団塊の世代が一番多いまちであったが、子育てや教育環境の充実に力を注いできた結果、特に子育て世代の方々に選ばれるまちとなった。

現在では 30 代～40 代の人口が最も多いことから、子どもたちも増え、若々しい活気に満ちたまちになっている。市内の認可保育施設数は、平成 22 年度に 17 園であったのに対し、令和 6 年 4 月に 104 園となった。また、全国でも数少ない、市内の保育園にお子様を送迎する市内 2 カ所の『駅前送迎保育ステーション』は、働きながら子育てをするお父さん・お母さんを強力にサポートする取組の一つである。

➤ 所感

「母になるなら、流山市。父になるなら、流山市。」をキャッチコピーにしている流山市。子育て支援については、共働きの子育て世帯をターゲットに、仕事をしながら子育てしやすいまちづくりを展開しており、そのどれもが若い世代の魅力があるものとなっていると感じた。

その中核の取組が今回調査対象とした送迎保育ステーションと市内の指定保育所(園)を安心・安全のバスで結び、登園・降園することができるシステムである「駅前送迎保育ステーション」である。

また、急ピッチで認可保育所等の新設、増員に取り組み、令和 3 年に待機児童ゼロを達成していることも特筆すべき成果である。また、令和 5 年 4 月には市内人口が 21 万人を突破し、人口増加率は、全国 792 市中 6 年連続で第 1 位となっ

ていることから本市も流山市の子育て支援の取組を参考し、取り入れるべきと考える。

具体的には、まずは市外に通勤する子育て世代の動向調査を実施するなどし、例えば、伊勢原駅北口再開発地の一画に駅前送迎保育ステーションを設置することも視野に入れ、提案していきたい。

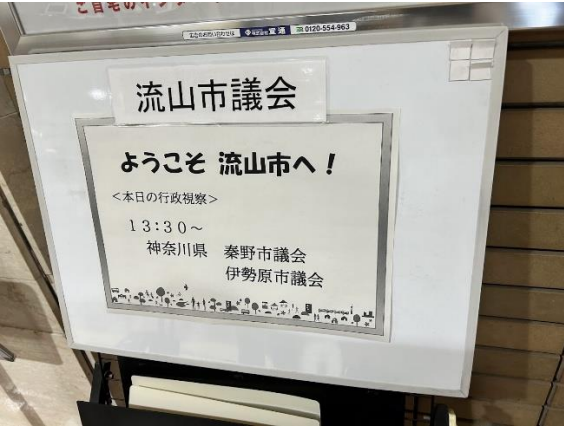
一方で、流山市の送迎保育ステーション事業は、年間 9 千8百万円ほど掛かっており市議会からオブジェクションがあるとのこと。この課題については本市も同様の事態になる可能性があるので費用対効果の観点でも検討が必要であると感じた。



今野議員、中山議員、(秦野市)横山議員、間地議員、中村議員



質疑の状況



流山市役所エントランス案内表示



流鉄流山線「鈴虫電車」